



NEWS RELEASE

2018年1月15日

東ソー株式会社

血小板創製ベンチャーの「株式会社AdipoSeeds」へ出資

～皮下脂肪組織から血小板を大量に創製する培養技術の早期実用化～

東ソーは、新たな成長分野への積極的投資の一環として、12月20日付で、慶應義塾大学医学部発 再生医療ベンチャー企業である「株式会社AdipoSeeds（以下、AS社）」の第三者割当増資を引き受け、同社へ出資しましたのでお知らせいたします。

AS社は、慶應義塾大学医学部臨床研究推進センターの松原由美子特任准教授、同大学医学部の池田康夫名誉教授らが確立した「皮下脂肪組織由来の間葉系幹細胞から血小板^(※1)を人工的に創製する技術」の実用化を目指して、2016年7月に設立されました。このプロジェクトは、試験管内で安定的に調製した血小板を用いて、①血小板輸血代替と②創傷治癒促進という2つの医療用途での実用化を目指しており、AS社は知財管理や早期の実用化／事業化のため、国内外の企業へのマーケティング活動を展開し、基礎的な研究開発に関しては引き続き松原特任准教授の研究グループが推進していきます。なお、AS社は、設立準備段階より、慶應義塾大学が設立したベンチャーキャピタルである慶應イノベーション・イニシアティブ（KII）から出資及び支援を受けています。

当社は、長年の研究開発で培ってきた、分離精製技術・微細加工技術・タンパク質改変技術などを活用し、再生医療の産業化に向けた研究開発を進めており、慶應義塾大学医学部 松原特任准教授研究グループとの共同研究を通じ、実用化に向けた支援技術の研究開発に注力してまいります。

また、今回のAS社への出資を通じ、再生医療支援技術開発への取り組みを加速するとともに、慶應義塾大学医学部 松原特任准教授研究グループおよびAS社と連携し、再生医療の実用化進展に貢献してまいります。

①血小板輸血代替：

血液疾患や抗がん剤使用時、出血時などで血小板減少が起こった場合、日本赤十字社が提供する血小板による輸血治療^(※2)が行われますが、輸血用血小板は献血に100%依存している上、保存期間が4日間と短く、安定供給面で潜在的な課題があります。高齢化社会の一層の進展により、血小板輸血を必要とする患者数が増加する一方、若年層の献血者が減少してきており、将来的には血小板製剤が不足することが課題とされています。これらの課題に対し、輸血用血小板の代替用途を見据えた実用化研究を推進します。



NEWS RELEASE

②創傷治癒促進：

創傷治癒促進に関しては、患者自身の末梢血から分離した多血小板血漿（PRP：Platelet Rich Plasma）を塗布もしくは注射する療法が広く知られています。しかし、PRP採取法の標準化がなされておらず、一定の品質を確保することが困難であること、また、大量の採血は難しいため、広範囲の治療には適していないこと等が課題となっています。これに対し、厳密な品質管理を行った創製血小板を安定供給することにより、課題克服を目指します。

【株式会社AdipoSeeds（アディポシーズ）の概要】

- ・社名：株式会社AdipoSeeds
- ・代表取締役：宮崎 洋
- ・所在地：東京都港区
- ・設立：2016年7月
- ・事業内容：再生医療等製品・新薬の研究、開発、製造、販売など

【用語解説】

※1 血小板：

血液に含まれる細胞成分の一種。血栓の形成に中心的に働き、止血作用、創傷治癒促進作用をもつ。体内では骨髄の中にある造血幹細胞からつくられる。

※2 輸血治療：

成分採血装置を用いて血液から止血機能を持つ血小板を採取した濃厚血小板製剤が、血小板の減少またはその機能低下による出血ないし出血傾向のある場合に使用される。

以上